

日本型CSA事業「FSVプロジェクト」への挑戦～絆の力で農と食を元気にするコミュニティ・ビジネス～

概要

小さな地域・小さな農業が自立する仕組みとしてアメリカにおいて注目されているCSA事業を、池田町の農業に取り入れる。「消費者と農家の提携関係に基づく、農産物の宅配・通販システムづくり」「心と顔がつながる交流拠点によるネットワークづくり」に取り組むことで、地域ぐるみでの「産地・消費者のネットワークづくり」を目指す。

事業の内容

事業の内容

○農村親戚型ネットワーク事業(CFN事業)

生産者と消費者が提携関係を結び、農・食・暮らしを相互に支え合う共同関係づくりを導入できるかを実験。(安定した生産と安心の食卓を支援しあう仕組みを提案)

○交流拠点「まちの大使館」の設置

池田ファンを増やし、CFN事業を紹介するため、情報発信と交流関係作りの拠点を設置。(親密なコミュニケーション活動を通して、CFN事業へのアプローチを実施)

総事業費

12.7百万円

ポイント

- 事業の仕組みづくりに協力してもらえるモニターの確保。
- つくり手である農業者と食べてである消費者との交流やコミュニケーションの方法。
- 交流拠点での事業取組みの紹介と的確な人々へのアプローチ。

事業の成果

生産者と消費者が「安定した農業」「安心の食卓」を互いに支え合う仕組みづくりの可能性の検証や、福井市内にオープンしたまちの大使館「米カフェ」では、事業の紹介や、特産品の販売、情報の発信等が行えた。

福井県池田町

まちの大使館 「米カフェ」



米カフェは食事を通して、生産者と消費者との距離を縮め、顔が見える関係づくりを進めている。